

尼崎町商家引札(2)概要

1:文書群番号	091008
2:文書群名	尼崎町商家引札(2)
3:出所	梅溪昇氏(大阪大学名誉教授〔日本近代史〕)
4:家業・役職等	
5:地名	尼崎市西本町ほか
6:行政区分	尼崎市
7:歴史	近世では江戸でとくに盛んであった。京都・大坂では早くから「ちらし」と呼ばれていたが江戸ほど盛んではなく、また三都以外ではきわめてまれであった。明治以降全国的に普及し一般化した。明治期頃までは小僧や人足をつかって配るのが一般的であったが、大正末頃になると新聞折り込みになり、名称も「ちらし」が定着した。
8:伝来	平成3年、梅溪昇氏が史料館へ寄贈。
9:史料入手先	梅溪昇氏
10:点数	30点(目録件数30件)
11:年代	明治40年(1907)～大正2年(1913)
12:構造と内容	本文書群は、尼崎町西本町を中心に、明治後期～大正初期にかけての尼崎商家の引札からなる。生魚、薬、油、紙、醤油、酒、綿、金物、菓子、雑貨・日用品等様々な商店名が見える。
13:関連史料	尼崎町商家引札(1)ほか
14:閲覧条件	原本
15:作成者	河野未央